

## 小児科に通院中（または 過去に通院・入院されたことのある）患者さんまたはご家族の方へ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は患者さんの診療情報を用いて行います。このような研究は、厚生労働省・文部科学省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（平成26年文部科学省・厚生労働告示第3号）の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の問い合わせ先へご照会ください。

【研究課題】 組織球性壊死性リンパ節炎の臨床的検討

【研究機関名】 NTT 東日本札幌病院

【研究責任者名・所属】 森 俊彦（小児科 部長）

【研究の目的】 組織球性壊死性リンパ節炎(Histocytic necrotizing lymphadenitis:HNL)は、1972年に日本人の病理学者である菊池らならびに藤本らによって報告された、抗菌薬に不応性の遷延する発熱と有痛性のリンパ節腫脹を主症状とし、血液検査で白血球減少を認め、病理学的にリンパ節の巣状の壊死と組織球の増生を特徴とする self-limiting な疾患である。小児と成人では性差や発熱の有無、白血球減少などの所見で異なるが、小児の報告例は、臨床診断例も含めた報告が多く、病理診断により確定された症例のみの報告は少ない。今回、HNLの小児例の臨床的特徴を明らかにする目的で、2002年12月以降に当院で経験した、HNL例で病理診断により確定された50例を対象に臨床的検討を行った、対象は、2002年12月から2021年3月までの期間にNTT東日本札幌病院小児科で経験したHNL例で、リンパ節生検により確定診断された症例を対象に、患者特性、臨床症状、身体所見、血液検査所見、画像検査所見、病理組織所見、治療、再発などについて検討する。

【研究の対象】

○対象となる患者様

2002年12月から2021年3月までの期間に当院の外来・入院で組織球性壊死性リンパ節炎と診断され治療を受けた患者様。

○利用するカルテ情報

血液検査(白血球、CRP値、生化学検査などの検査結果)、リンパ節の病理組織検査結果、CT、MRIなどの画像検査結果、性別、年齢などの患者特性、発熱、有痛性リンパ節腫脹などの臨床症状の有無、入院期間、合併症の有無、治療、再発の有無等。

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さん個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの個人情報に関しては、お名前住所などを特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌に発表されますが、その際も患者さ

んを特定できる個人情報は利用しません。

\* 上記の研究に情報を利用することをご了解いただけない場合は以下にご連絡ください。

NTT 東日本札幌病院小児科

連絡先:〒060-0061 札幌市中央区南1条西15丁目

担当医師: 森 俊彦

Tel: 011-623-7240

Fax: 011-623-7527